

若者との対話を通して

市長 米本弥一郎



去る5月21日に「市民と市長との対話集会」二十歳のつどい実行委員編入を開催し、二十歳を迎える若者14人と、旭市の現状や将来について意見交換を行いました。

この対話集会は、私が目指す「対話による開かれた市政」の一環として、昨年度から開催しているもので、未来を担う若い世代と直に会って語り合える貴重な機会となっています。

旭のいいところという話題では「農水産業が盛んで、食べ物が多い」「商業施設や大きな病院がある」「地域のつながりが深く、人がやさしい」と話してくれました。一方で、物足りないところとして「電車がバスの本数、宿泊施設が少ない」「海岸で行うイベントへのアクセスが悪い」「国道がよく渋滞している」などの意見がありました。さらに、まちづくりについて「まちの活

性化には、若者が集まることが重要であり、若者への支援が必要」「情報発信をもっと充実すれば、旭に訪れるきっかけになる」といった提案もいただきました。

参加者には市外に在住、在勤している人もおり、ほかの自治体と比較しての意見も出るなど、その視野の広さに感心させられたところです。

私からは、多くの若者に「チーム旭」の一員として、まちづくりに参加してほしいという思いから、政治への関心を持つことや、選挙に行くことの大切さを伝えました。

今回、特にうれしかったのは「将来は旭市で仕事をしたい」という声が多く聞かれたことです。若者たちの思いをしっかりと受け止め、希望を叶えられるまちづくりを進めなければならぬと、改めて自分の使命と責任を感じた日となりました。